

ご列席の皆様、

世界が大きく変わりつつあります。世界ビジネス、国際貿易や投資、情報交換などの方法が大きな変化を受けています。教育にはこれらの変化に効率よく対応できるビジネスリーダーを育成する重要な使命があります。私の出身国であるポーランドでも現在マネジメント教育が重視されております。ポーランドの人々は日本の経済や文化に非常に深い関心をもっております。25年ほど前、レフ・ワレサ元大統領が「ポーランドを日本のような国に変えよう」という目標を設定しました。そして、様々な困難を乗り越え、より安定した市場経済を築きつつありますが、ワレサ氏の夢が叶うまでには至っておりません。

まず自己紹介をしたいと思います。私は以前ポーランドの副首相兼財務大臣をしており、世界銀行や国際通貨基金のコンサルタントとしての経験があるのみならず、研究や教育とも深い関わりがあります。現在ポーランドのレオン・コズミンスキ企業経営大学で教授を務めると同時に、同大学の移行・統合・グローバル化経済研究所（略して TIGER）の創立者でもあります。私の研究や講義

の中心的な部分は、ポーランドや海外で積み重ねた仕事経験に基づいています。

日本を、学者として、副首相として、また旅行者として何度も訪れる機会がありました。初めて日本を訪問したのは1989年です。このころから世界が大きく変わってきましたが、特に中東欧の変化が激しかったと思います。激動する社会で様々な経験をし、その経験から多くのことを学ぶことが、世界をよりよく理解し、競争社会やビジネスに成功する秘訣だと信じております。

ヨーロッパにおける共産主義の崩壊をきっかけとして、1989年にポーランドの変化が始まったと思われます。共産主義から資本主義への移行は決して簡単なものではありませんでしたが、ポーランドは市場経済や市民社会への移行に伴う数多くの困難をよりスムーズに解決できたと言われ、世界のほかの新興市場諸国の手本になれると思います。

2年前、ポーランドはEUヨーロッパ連合の加盟国になりました。このことを含め、私自身、ポーランド史上二つの重要な出来事に貢献することができました。

まず1996年に、財務大臣を務め、経済協力開発機構に加盟を果たしました。

その6年後、副首相兼財務大臣としてヨーロッパ連合の加盟交渉に参画しました。

ポーランドは多くの困難を乗り越え、現在経済成長の早い国になりました。1990年から現在にかけて、財政緊縮策等を背景に経済成長率の激しい変動がみられました。今後、GDP 国内総生産の成長率はおよそ3%の見込みであり、景気回復が期待されます。企業家や経営者たちの努力により、ポーランドは年間に1兆ドルもの商品やサービスを輸出し、輸出主導型経済となっております。

ビジネススクールには世界経済の早い変動に対応できる、積極的かつ優秀な企業家と経営者を養うことが重要な課題であると思っています。レオン・コズミンスキ企業経営大学は、創立時からファイナンス、マネジメント、マーケティング、そしてビジネス心理学や社会学の学士及び修士課程を数多く提供しております。また、フランス、イギリス、スペインの有名大学やビジネススクールと提携し、大学院プログラムも提供しております。

これまで、レオン・コズミンスキ大学はポーランドの数百ある私立大学やビジネススクールの中で一位にランキングされたことが数度あり、我々の質の高いビジネス教育が高く評価されています。ポーランドおよび海外からのノーベル賞受賞者、政治家やビジネス社会のリーダーたち、そして優秀な学者が様々な分野を教えています。大学の創立者 Andrzej Kozminski 教授が述べたように、このように国際化された大学のカリキュラムが、厳しい国際ビジネス社会のリーダーを目指している学生の希望を実現させるのに役立つことは間違いありません。国際交流により、世界中の人々とふれあいながら国際ビジネス経験を深めることが、EU ヨーロッパ連合の教育ポリシーの根幹の一部を成しています。国際舞台で成功するために、世界を視野に入れることは、日本やほかのアジアの国々では当たり前のことと思われるでしょうが、これは中・東欧、旧ソ連や中国のような新興市場諸国が学ぶべきことです。これらの国の経済発展のためには、質の高いビジネス教育が必要不可欠となっています。

レオン・コズミンスキ大学は1999年からエラスムス国際交流プログラムに参加しております。エラスムスプログラムの経済の分野では、各国の商法の違

いだけでなく、商慣習の違いなども具体的に教えるカリキュラムが開発されています。プログラムが導入されてから、およそ400人が海外で研修を受けています。ヨーロッパ、アメリカ、カナダ、中国と日本の最も優秀な大学と提携し、これからもプログラムの規模がロシアや旧ソ連の国々、インド、メキシコなどに広がる見込みがあります。

以上のことを背景に、名古屋商科大学との研究や教育のコラボレーションが高く評価されています。将来、本学の多くの学生諸君をポーランドで歓迎できることを強く望んでおります。

最後にこの場をお借りして、新入生の皆様のご活躍を祈っております。ビジネスを学ぶために名古屋商科大学を選ばれたことは正しい選択だと信じております。本学で、皆さんは国際ビジネスの知識、理解を一層深められ、世界市場で活躍する第一歩を踏み出してください。経験や知識を国内外で積み重ね、グローバルな視点でものを考え、そして、それを生かしていける人物になってください。

ご静聴ありがとうございました。